

多国籍企業の種子支配にいかに対抗するか

1999.2.14 久野（北海道大学）

はじめに

遺伝子組み換え作物と多国籍企業

- * 遺伝子組み換え作物はどこまで広がっているのか？（資料1）
 - * どのようなものが開発されているのか？（資料2,3,4）
 - * 遺伝子組み換え作物を推進しているのは誰か？（資料5,6,7）
 - * 遺伝子組み換え作物はどこへ向かおうとしているのか？
 - ・ グローバル展開（とくに南米）
 - ・ 商品化の第2段階（資料8,9）
 - ・ 生産者の市場包摂（資料10）
 - ・ 基礎技術と植物遺伝資源の囲い込み
- } バイオメジャーの形成（資料11）

大豆需給の不安定性について

- * 日本型食生活の基本（資料12）
- * 多様な用途：見えない大豆（資料13）
- * 生産国・輸出国の偏在（資料14,15）
- * 大豆相場の不安定（資料16）
- * 南米生産国の動向
- * 日本政府の対応

種子政策のあり方について

- * 種子市場の構成（資料17,18）
- * 種子事業と公私間分業の問題点
- * 国公立試験機関や国際機関の果たすべき役割（資料19）

おわりに

- * 生物多様性と農業のあり方（資料20,21）
- * 科学技術を否定することなく（資料22）